



A-PLAT

気候変動適応情報プラットフォーム
CLIMATE CHANGE ADAPTATION INFORMATION PLATFORM

資料 2

令和 7 年度「気候変動適応の研究会」の活動報告 および今後の活動方針

2026年2月10日

国立環境研究所 気候変動適応センター



- **気候変動適応の研究会について**
- **今期（令和6～7年度）分科会の活動報告**
- **令和8～9年度の分科会の活動方針案**

地域での気候変動適応の実践（いわゆる社会実装）を念頭に置いた

- 国研と地域気候変動適応センター（以下、LCCAC）の対話・共創・交流
 - ⇒ 地域の現場における課題感の共有と解決に向けた意見交換
 - ⇒ 最新の科学的知見の活用に向けた情報交換
 - ⇒ 両者のニーズ・シーズのマッチングによる新たな協働の模索
- 国研どうしの対話・共創・交流
 - ⇒ 各機関の取組を共有し、あらゆる形での連携や協働の可能性を模索
(将来的な可能性：共同研究の立ち上げ、外部競争的研究費の獲得)

気候変動適応の研究会のあゆみ（R2～R7年度）

年度	内容	参加者	形式
令和2	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関による気候変動適応に係る最新の研究・取組動向の発表 	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関 	オンライン
令和3	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関による最新の研究・取組動向の発表 アンケート結果や意見交換会を踏まえた、6テーマでのWG設立についての議論 	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関 LCCAC10機関程度 	オンライン
令和4	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関による最新の研究・取組動向の発表 テーマごと（6分科会）に参加者間での情報交換や連携の可能性等の議論を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関 自治体・LCCAC20機関程度 	現地開催（つくば）とオンラインのハイブリッド
令和5	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関による最新の研究・取組動向の発表 テーマごと（6分科会）に参加者間での情報交換や連携の可能性等の議論を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機 自治体・LCCAC30機関程度 	現地開催（東京）
令和6	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関による最新の研究・取組動向の発表 新編成の分科会（6分科会→4分科会）による活動を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関 自治体・LCCAC35機関程度 	現地開催（東京）
令和7	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関による最新の研究・取組動向の発表 4分科会での活動・議論の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 国研21機関 自治体・LCCAC35機関程度 	現地開催（東京）

4つの分科会活動

- 4つの分科会を編成。国研研究者・LCCAC担当者等がそれぞれ希望する分科会に所属（複数可）。
- オンライン勉強会等を適宜開催し、12月には対面形式での会合を実施。

※敬称略

<p>気候データシナリオ分科会 座長：足立（理研）、仲江川（気象研）</p>	<p>農林水産業分科会 座長：長谷川（農研機構）</p>
<p>■ 目的 気候予測データ開発者と利用者（国研の影響評価研究者ならびに地域気候変動適応センターの担当者）の双方向的な対話を試行・実現させる。</p>	<p>■ 目的 農業・林業・水産業分野の専門家が集結する機会を活かし、互いの接点に気づき、適応に関する新たな切り口や研究連携について考える。</p>
<p>NbSと気候変動分科会 座長：西廣（国環研）</p>	<p>暑熱・健康・都市分科会 座長：高根（産総研/国環研）</p>
<p>■ 目的 自然の機能を活用した気候変動適応の取組および関連研究について情報共有し、特定の地域での共同研究や統合モデルの構築に向け、連携を強化する。</p>	<p>■ 目的 気候変動の影響で脅かされる人々の暮らしや安全について、最新の研究成果の共有や対話を通じ、地域での実装に結び付ける。</p>

令和7年6月16日 実務者会合（オンライン）

- 研究会および各分科会の活動方針案・実施計画案等に関する意見交換
- 令和7年度研究発表会・分科会の開催日程等について周知

令和7年12月16日 研究発表会・分科会（@コングレスクエア日本橋）

- 研究発表会：各構成機関による最新の研究動向やトピックに関する解説
- 分科会：分野別の情報交換や連携・協働の可能性等を議論
- 総会：次期分科会の活動方向性についての議論および新座長の承認
 - 開催後アンケートにて今後の企画・運営に関するご意見等を聴取

令和7年度 研究発表会・分科会の開催概要

日時 : 令和7年12月16日(火) 9:40~18:00

開催形式 : **対面** (コンgresクエア日本橋)

参加者 : 計**166名** (研究機関・大学等 : 104名、LCCAC・地方公共団体等 : 62名)

プログラム概要 :

9:30	開会、趣旨説明	
9:40-11:55	研究発表会 (4会場、計20講演)	
11:55-13:50	写真撮影、特別セミナー※、ポスターセッション ※JSTより気候変動適応に関する取組及びファンディング等について紹介	
14:00-15:20	農林水産業分科会	暑熱・健康・都市分科会
15:30-16:50	気候データ・シナリオ分科会	NbSと気候変動適応分科会
17:00-18:00	総会 : 今期分科会の総括および次期分科会活動についての議論	
18:00	閉会	
-20:00頃	交流会	



令和7年度研究発表会 - 発表テーマ一覧 -

* 発表15分、質疑10分

* 講演資料など <https://adaptation-platform.nies.go.jp/ccca/conference/2025/1216/index.html> (敬称略)

気象観測・モデリング	農林水産業	自然災害・沿岸域	暑熱・健康・都市
<p>JAXA衛星地球観測と気候変動適応への利用に向けて</p> <p>落合 治 (宇宙航空研究開発機構)</p>	<p>農業分野における気候変動適応技術の定量的評価：モデルとモニタリングの連携</p> <p>長谷川 利拡 (農研機構)</p>	<p>気候変動による降雨時空間分布の将来変化と流域デジタルテストベッドの活用</p> <p>山地 秀幸 (国土技術政策総合研究所)</p>	<p>気候・電力ビッグデータを用いた温暖化による空調電力需要への影響評価</p> <p>中島 虹 (産業技術総合研究所)</p>
<p>次期気候予測データ (d4PDFv2) の概要と初期評価結果</p> <p>辻野 博之 (気象研究所)</p>	<p>森林生態、林業分野における気候変動適応の実装化に向けた課題</p> <p>中尾 勝洋 (森林研究・整備機構 森林総合研究所)</p>	<p>スリランカのコロombo都市圏における都市洪水対策事業の気候変動適応効果の分析評価</p> <p>佐藤 一郎 (国際協力機構)</p>	<p>熱中症発生確率を用いた熱中症救急搬送者数の地域差に関する分析</p> <p>下ノ園 慧 (国立保健医療科学院)</p>
<p>気候変動下におけるグローバルコモンズの保全に向けたプラネタリーレジリエンス科学 — 理研・CGC・PIKの国際連携 —</p> <p>持田 恵一 (理化学研究所)</p>	<p>藻場吸収源デジタルツイン構築による深海貯留量の推定</p> <p>五十嵐 弘道 (海洋研究開発機構)</p>	<p>気候因子を加味した土砂流出発生確率マップの構築</p> <p>秋田 寛己 (防災科学技術研究所)</p>	<p>人流データを活用した都市の暑熱対策に関する研究事例</p> <p>熊倉 永子 (建築研究所)</p>
<p>気候変動適応に対するNICTの取組</p> <p>佐藤 知紘 (情報通信研究機構)</p>	<p>海洋環境の変化に対応した漁業の在り方対象魚種の多角化の取組み</p> <p>加藤 慶樹 (水産研究・教育機構)</p>	<p>フィリピンにおける気候と社会の将来変化予測に基づく適応策の推進</p> <p>宮本 守 (土木研究所)</p>	<p>気候変動が感染症リスクに及ぼす影響と適応策—ベクター媒介感染症を中心に—</p> <p>駒形 修 (国立感染症研究所)</p>
<p>極域から考える気候変動適応：海氷情報室の取組みと今後</p> <p>小野 純 (国立極地研究所)</p>	<p>気候変動時代の農業革新：国際農業研究による貢献</p> <p>林 慶一 (国際農林水産業研究センター)</p>	<p>気候変動下での港湾の高潮リスク評価に向けた取組み</p> <p>岩本 匠夢 (海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所)</p>	<p>気候変動適応に関する科学的知見の社会実装に向けて</p> <p>真砂 佳史 (国立環境研究所)</p>

* 特別セミナー：気候変動適応に関するJSTの取組みの紹介(ファンディング+@) 矢ヶ部信吾 (科学技術振興機構(JST))

- **気候変動適応の研究会について**
- **今期（令和6～7年度）分科会の活動**
- **令和8～9年度の分科会の活動方針案**

活動方針

気候予測データ開発者と利用者（国研の影響評価研究者ならびに地域気候変動適応センター等の担当者）の双方向的な対話を試行・実現させる。

主な活動内容

＜令和6年度＞

- ①LCCACを対象とした、気候予測データの利活用に関するアンケートの実施
- ②分科会「次期気候予測データセット（仮）がやってくる！」の開催

＜令和7年度＞

- ③気候変動適応セミナー「日本の気候変動2025」の開催
- ④ダウンスケーリングWGの開催
- ⑤気候変動適応の研究会 分科会

③気候変動適応セミナー「日本の気候変動2025」の開催

日時：令和7年5月22日（木）13～15時
参加者：国研・LCCAC・省庁・企業など 409名
共催：気象庁、文部科学省

目的

「日本の気候変動2025」が公開されたことを受け、主にLCCAC、企業等を対象に、本報告書の解説や科学的ポイントについて共有。

No	登壇者	講演内容
1	気象庁 大気海洋部 気象リスク対策課 気候変動対策推進室 気象リスク対策官 大久保 沙貴氏	日本の気候変動2025について
2	気象研究所 気候・環境研究部 部長 仲江川 敏之氏	日本の気候変動2025における科学的ポイント
-	休憩	
3	パネルディスカッション (質疑含む)	話題提供：埼玉県LCCAC「日本の気候変動2025の地域気候変動適応センターでの活用について」 パネラー：講師2名 モデレーター：国立環境研究所

セミナー参加者へのアンケート結果より

Q：「日本の気候変動（2020/2025）」を用いた普及啓発の際に、聞き手に誤解されがちな点や、理解いただくのに苦慮するデータ等がありますか。

- 不確実性の伝え方
- どこまで簡略化してよいか示してあるとありがたい。
- 「●●年に一度」という表現。「100年に一度の大雨が去年来たから今年は大丈夫だろう」、「当分来ないだろう」といった解釈をされるケースもあるようで、見直しの余地があるのでは。
- 都道府県の気温の上昇傾向（トレンド）を説明する際、日本国内のトレンド（1.4℃/100年）より上昇度合いが大きい場合、**都市化の影響を説明**する必要があり苦慮することがある。日本国内の1.4℃/100年は、都市化の影響が少ない地点によるものだと思うが、一般の方への説明が難しい。
- LCCACの職員が住民の方にわかりやすく説明できるような「普及版」があると良い。

④ダウンスケーリングWGの開催（1）

- 国立環境研究所と気象研究所の包括連携協定を2025年3月25日に締結。
→ 適応に関する知見の深化を協定に基づく取組の一つとしている
- 協定の取組の一環に加え、研究会のうち、気候データ・シナリオ分科会の取組の一環として、研究者同士の交流を主な目的として、今年度より活動が開始。
- 今年度の活動として、開発者と利用者向けセミナーを開催。



- ◆ 座長：高薮氏
- ◆ コア機関：
気象研究所
理化学研究所
農研機構
筑波大
国環研（事務局兼務）

④ダウンスケーリングWGの開催（2）

「気候変動影響評価と適応策検討のためのダウンスケール・バイアス補正に関する理論・技術・システムの最前線」

日時：2025年10月30日（木）13～17時
 方式：ハイブリッド
 参加者：国研・LCCAC・大学・企業など約160名

No	時間	登壇者・講師	講演内容
1	13:00	国立環境研究所	事務局からの紹介
2	13:05	ダウンスケーリングWG 高藪座長	開会、趣旨説明、ダウンスケーリングとは
第1部 ダウンスケーリングのシステム・データの最前線について			
3	13:15	気象研究所 川瀬宏明氏 気象研究所 野坂真也氏	日本の気候変動予測のためのダウンスケーリングシステムの構築とイベント・アトリビューションへの活用
4	13:55	筑波大学 Doan Quang Van氏	アクションナブル都市気候情報：課題と展望 Actionable Climate Information for Cities: Challenges and Opportunities
5	14:35	気象研究所 関山剛氏	AI技術とダウンスケーリング
休憩 (15:15～15:25)			
6	15:25	農業・食品産業技術総合研究機構 西森基貴氏	ダウンスケール・バイアス補正の使える技術
7	16:05	国立環境研究所 石崎紀子	統計的ダウンスケーリングによる気候シナリオは信頼できるのか？
第2部 気候シナリオの利用者とのパネル討論 (30分)			
8	16:45	パネラー：講演者 ・北海道立総合研究機構 鈴木啓明氏 ・長野県環境保全研究所 栗林正俊氏 ・沖縄県衛生環境研究所 南雲春馬氏 モデレーター：高藪座長	全体討論
9	17:15	ダウンスケーリングWG 高藪座長	まとめ、閉会

第1部

ダウンスケーリングのシステム・データの最前線について

気象研究所、筑波大学、農研機構等の専門家より、統計的・力学的DSのほか、AIを活用したデータ駆動的な手法等を紹介。

第2部

気候シナリオの利用者とのパネル討論

第1部講演者に加え、業務として気候シナリオ等を利用しているLCCAC担当者（3名）でのディスカッションを実施。実務利用に伴う課題・要望など、利用者側のニーズを開発者側と共有。

<パネル討論および参加者からの意見など>

- データセット20XXを公開する場合には、どのデータがどのような用途に向いているのかが分かるように、各データの長所・短所などの特性一覧があることが望ましい。
- 利用者が解釈できるよう、開発者はサポートしていく意識が必要。（開発者と利用者のコミュニケーションが重要）
- 地域における適応策の実践に必要なデータやその活用における注意点等について、定期的な議論の機会を設けていただくことに期待。

⑥ 気候変動適応の研究会・分科会（令和7年12月16日）

プログラム（90分）

1. 趣旨説明
2. 活動・関連する取組の報告
 - ・気候変動適応セミナー「日本の気候変動2025」
 - ・ダウンスケーリングWG
 - ・LCCAC勉強会
3. 座談会_（5-6名×12班）
4. 次期の方向性について（パネルディスカッション形式）

*分科会はクローズドで実施中（資料公開なし）



座談会での意見

テーマ①この2年間で気候データ・シナリオを使いましたか？

- ・LCCACにおける気候データの利用経験はさまざまである。
- ・サーバに自ら入って作業できる手順書のようなものがあるとデータ利活用へのハードルが下がる。

テーマ②AIを利用した気候データシナリオ開発に賛成？反対？

- ・研究側は背後のモデルなどを理解した上で使用すべき。実務側としては正確な情報であるかどうかが重要。
- ・バイアス補正やDSにおける活用に期待。多々ある予測手法のうちの一つとして捉えるのがよい。

活動方針

(目的) 農業・林業・水産業分野の専門家が集結する機会を活かし、互いの接点に気付き、適応に関する新たな切り口や研究連携について考える

R6年度：適応に関する新たな切り口や研究連携について考えることを目指し、最新（未発表）の研究成果やトピックを知る機会を設ける

R7年度：農林水産業に関する適応策実践を目指した取組を実施

主な活動内容

＜令和6年度＞

①「気象予報技術と農林水産業分野での影響評価」の開催

＜令和7年度＞

② S-18の成果活用に向けた勉強会（計4回）

③気候変動適応の研究会 分科会

④ S-18の成果活用に向けた勉強会

S18-2（農林水産業分野を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価） 成果活用に向けた勉強会

開催概要	プログラム
第1回 【S-18全体について】 5月27日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・開催趣旨 ・令和6年度実施アンケートの紹介 ・S-18について／長谷川座長（農研機構） ・パネル討論
第2回 【水稲・野菜】 8月4日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の水稲の収量・品質予測と複数の適応策導入効果／石郷岡氏（農研機構） ・近年の異常高温による一等米比率低下と高温耐性品種の導入効果の推定／若月氏（農研機構） ・施設栽培夏作ホウレンソウの将来予測と適応策への取り組み／米田氏（農研機構） ・パネル討論
第3回 【畜産業・水産業】 10月3日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産業における将来予測と適応策／樋口氏（農研機構） ・気候変動による水産資源への影響と適応策／木所氏（水産資源研究所） ・三陸沿岸各地におけるワカメ養殖への温暖化影響／笥氏（水産資源研究所） ・パネル討論
第4回 【果樹生産・林業】 11月12日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹生産における将来予測と適応策／杉浦氏（農研機構） ・林業における将来予測と適応策：人工林の成長と炭素吸収／鳥山氏（森林総研） ・林業における将来予測と適応策：将来の斜面崩壊リスクの評価／経隆氏（森林総研） ・パネル討論

- ✓ 地域の適応計画に関わる関係者に向け、研究成果をわかりやすく紹介
- ✓ 科学的手法やデータの活用方法を共有

③ 気候変動適応の研究会・分科会

プログラム（90分）

1. 趣旨説明
2. 勉強会事後アンケートの結果共有
3. 座談会
～S-18成果を適応計画や農林水産業関連計画に活用するために～
分野：「水稻」「畜産」「水産業」「林業」「花き・果樹・その他」
4. 次年度の方向性について
データや研究成果の提供による計画策定支援等の実施



* 分科会はクローズドで実施中（資料公開なし）

座談会での意見

- ・（国研）全国各地で実際に起きている気候変動の影響について、情報収集する貴重な機会となった。
（LCCAC）どの機関がどのようなデータ・技術を持っていて、どのような支援を受けられるのかを知ることができた。
- ・LCCACが都道府県の農林水産業系試験場の取組・研究にどこまで関わっていくべきか・いけるかが難しい。
- ・LCCACなどの地域の組織から農研機構などの国研に技術的支援を直接求めることは、ハードルが高く感じられる。
→国研に窓口のような場所があるとよい。
- ・国研から適応策を現場へ提示することは可能だが、地域での実施に伴う費用について現場どう伝えるかが難しい。

活動方針

- 自然の機能を活用した気候変動適応策の実現には、分野横断・省庁横断的な取組が必要。
- 自然の機能を活用した気候変動適応の取組（副次的に適応につながる取組を含む）および関連研究について情報共有する。
- 特定の地域での共同研究や統合モデルの構築に向け、連携を強化する。

主な活動内容

<令和6年度>

- ①「気候変動への適応に役立つ自然の活用事例集（仮称）」の作成に向けた情報収集
- ② 外部研究チームとの合同勉強会・現地視察会（宮城県五福谷川など）への参加・交流

<令和7年度>

- ③ NbS自然と適応データベースの作成・公開
- ④ 現地視察（印旛沼流域における谷津再生・活用現場）の実施
- ⑤ 気候変動適応の研究会 分科会

③NbS自然と適応データベースの作成・公開

NbS 自然と適応データベース（2025年7月公開）
 ～自然の機能を活用した気候変動適応策に関する研究・実践事例集～

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/ccca/institute/nbs/index.html>

No	事例名称	実施場所 (都道府県)	実施場所 (特定地域)	事例の種類	
1	生態系保護のための狩場山周辺の保護林拡充	北海道	狩場山周辺	実践	北海道南部狩場山周辺における保護区見直し
2	クモヘリカメムシの分布域の実態把握とモニタリング体制の整備	宮城県		実証・研究	クモヘリカメムシは登熟初期の加害はしなや害は斑点米を発生させるため、多発した場合に太平洋側におけるクモヘリカメムシの生息北限が、温暖化の影響による分布拡大が懸念されて内におけるフェロモントラップ調査を行い、発生果、仙台市沿岸及び、厳寒期の気温から発生した北部の内陸部(大崎市・栗原市)に分布域を拡げ、多発ほ場における特徴として、水田内に幼虫の発生が見られ、8月下旬～9月中旬に第1
3	温暖化によるイネ紋枯病の被害予測と被害軽減対策	宮城県		実証・研究	温暖化により今後被害の増加が懸念されるイネシユ気象情報とイネ紋枯病シミュレーションモデルの発病株率を面的に推定することにより、判断できる防除技術を開発した。また、2℃気温高温条件下での紋枯病発病程度を確認し、防除調査の結果、生育初期から高温で経過した場合発病株率が高くなり、収量が低下することを確認し、BLIGHTASを組合せることで、紋枯病の発病株率を低減させた。紋枯病を対象とした殺菌剤を育苗箱処理する推定式を明らかにし、これらを組み込んだ対策案を提案した。
4	海岸防災林の防風や防	宮城県	仙台市	実践	東日本大震災の津波によって失われた海岸林

対象など

研究機関や自治体、企業、個人など、気候変動適応や自然資本の保全に取り組むすべての方々に向けた**基礎的な情報提供ツール**

特徴

- 国内各地で実践されている自然の機能を活用した気候変動適応策の情報を掲載
- 研究プロジェクトや情報基盤も掲載
- 分野ごとの検索も可能

継続的に更新予定！
(A-PLATお問い合わせにて情報提供を受付中)

※ Excel版ダウンロード
https://adaptation-platform.nies.go.jp/ccca/institute/nbs/files/nbs-db_2507.xlsx

④現地視察（印旛沼流域における谷津再生・活用現場）の実施

視察先

- 谷田・武西の谷津（白井市谷田・印西市武西）
- 竹中工務店技術研究所「調の森 SHI-RA-BE」
- 徳性院からの西印旛沼全景
- 八ツ堀のしみず谷津（富里市）

※活動報告全文（A-PLAT）

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/ccca/report/2025/0612.html>



谷津の全景



湿地の生き物観察（マドジョウなど）



八ツ堀のしみず谷津（富里市）

⑤気候変動適応の研究会・分科会

プログラム（90分）

1. 今期の活動の振り返り

2. 話題提供

2-1 MS&ADグループのNbS取組事例と、連携企業探し方のヒント

城 千聡 氏（MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社）

2-2 施策間連携で進める自然を活かした適応 — 佐倉市の取組

高橋 尚子 氏（佐倉市 環境経済部 環境生活課 気候変動対策室）

3. 全体意見交換（次期活動のイメージについて）

* 分科会はクロードで実施中（資料公開なし）



次期活動への要望など

- ・ 研究者どうしおよびLCCACを交えた交流の場とした合同ゼミのような形での継続
- ・ 多様な主体が関わる分野であり、セミナー等での情報共有も重要
- ・ データベースの活用方法の検討（冊子化、英文化など）



活動方針

気候変動の影響で脅かされる人々の暮らしや安全について、最新の研究成果の共有や対話を通じ、地域での実装に結び付ける。

主な活動内容

＜令和6年度＞

- ①熱中症対策に係るセミナー（気候変動適応セミナー）の開催
- ②暑熱・健康・都市分野に関する地域での課題等に関するニーズ調査（R6年度）

＜令和7年度＞

- ③熱中症対策に係るセミナー（気候変動適応セミナー）の開催
- ④気候変動適応の研究会 分科会

③ 気候変動適応セミナー「熱中症対策」での情報提供

日時：2025年6月17日（火）15～17時

参加者：国研・LCCAC・省庁・企業など 約400名

* 推進費（1-2307、S-24）と共催

目的

- 熱中症対策に関する行政や企業の取組および研究動向（暑熱環境の将来予測、疫学的研究など）の共有。
- LCCAC、企業など現場での課題解決に向けた取組につなげる。

No	登壇者	講演内容
1	環境省 大臣官房環境保健部 企画課熱中症対策室 室長補佐 久保満希子氏	熱中症対策～近年の傾向と対策のポイント～
2	川崎市環境局環境総合研究所 都市環境担当 小木曾武史氏	川崎市における熱中症対策の取組
3	阪神園芸株式会社 代表取締役社長 植村弘氏 一般社団法人Meister 理事井口洋平氏	サッカー・フィールドにおける熱環境緩和に向けて:気候適応型人工芝システムの導入
4	日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野教授 日本医科大学付属病院高度救命救急センター部長 横堀將司氏	熱中症の病態と治療
5	国立研究開発法人海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門地球情報科学技術センター データ統融合解析研究グループ特任研究員 伊東瑠衣氏	極端な高温現象とその暑熱環境に関する将来予測
-	休憩	
6	パネルディスカッション (質疑含む)	パネラー：講演者 モデレーター：国立環境研究所 岡和孝

参加者からの感想など

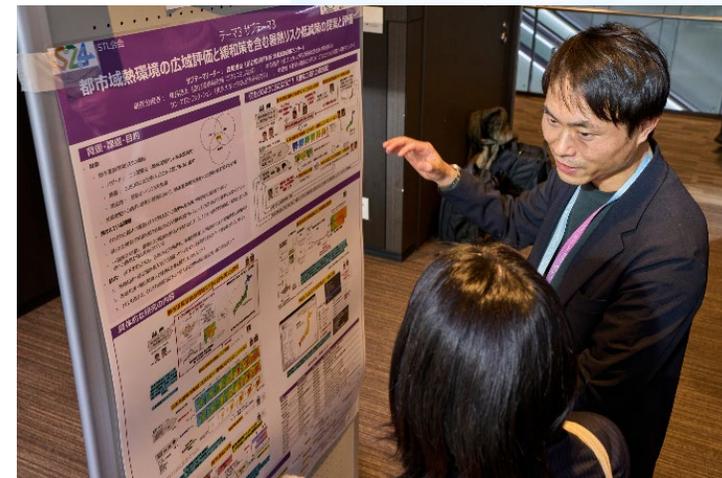
- データ取得から解析、普及啓発にいかにつなげるか、産官学の連携が非常に重要。
- 情報弱者へ適切な情報をいかに届けるかが重要。
- 熱中症アプリケーションの研究が進み、一般化されることを期待したい。
- 熱中症対策リーフレットに温度計をつける発想は面白い。高齢者向けの対策として有効だと感じた。

④ 気候変動適応の研究会・分科会

出典：令和7年度研究発表会・分科会活動報告（A-PLAT）
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/ccca/report/2025/1216.html>

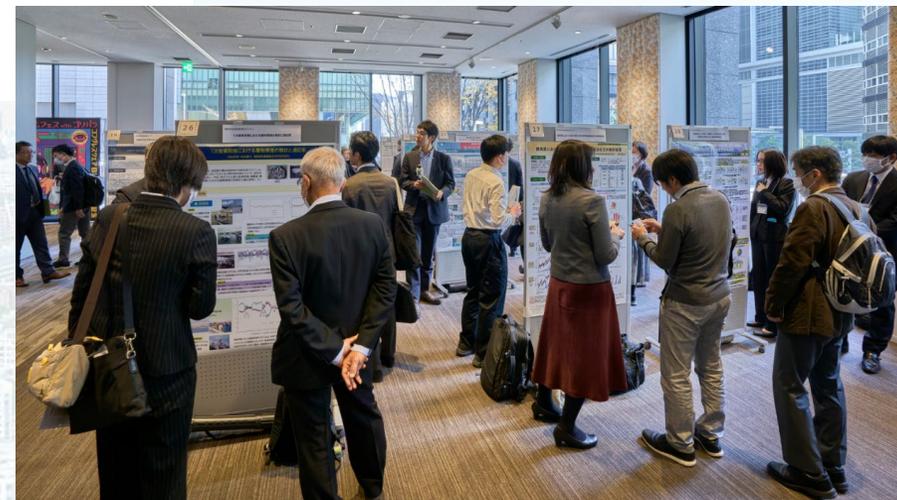
プログラム（90分）

1. 趣旨説明
2. 話題提供
 - 2-1 研究機関連携を通じた暑熱健康に関する研究
国立環境研究所 岡 和孝
 - 2-2 推進費S-24-3(3)都市域熱環境の広域評価と緩和策を含む暑熱リスク低減策の提案と評価について
国立環境研究所 高根 雄也
3. 次期活動についての意見交換
4. ポスターセッション * 分科会はクロードで実施中（資料公開なし）



ポスターセッションの感想など

- 時間を気にせず発表者と十分な情報交換ができ、ネットワーキングの機会にもなった。
- LCCACが暑熱対策に熱心に取り組んでいることを知ることができた。
- LCCACの取組に貢献できるようなデータ提供方法を検討したいと感じた。



共同研究適応型（暑熱）との合同開催によるポスター発表

- **気候変動適応の研究会について**
- **今期（令和6～7年度）分科会の活動報告**
- **令和8～9年度の分科会の活動方針案**

各分科会の構成・実施体制案

- 4分科会体制で実施。
- 各分科会に座長をおき、事務局は国環研が担当する。
- 活動期間：2年間

分科会名	新座長	所属
気候データ利活用推進※	川瀬 宏明	気象研究所
農林水産業	西森 基貴	農研機構
NbSと気候変動適応	横山 仁	防災科学技術研究所
暑熱・健康・都市	岡 和孝	国立環境研究所

※気候データ・シナリオ分科会から改称予定

※「気候データ・シナリオ分科会」より改称予定

座長：川瀬 宏明（気象研究所）

背景

- 今期の活動より、気候予測データ等開発者と利用者間のニーズの認識のギャップに留意した取組の重要性が認識された。データ利用者側（特に、地域気候変動適応センター（以下、LCCAC）の数年で異動のある担当者と異動の少ない研究者等）における習熟度のばらつきへの対応が特に重要と考えられる。
- データ開発者と利用者の双方向的な対話の継続が望まれている。

次期の活動方針（案）

- 気候予測データ等の利活用に関する双方向的な対話を継続し、開発側と利用側のニーズの詳細を把握し、マッチングについて検討する。
- LCCAC新任者など、気候データを初めて扱う方を対象とした学習機会について、他の同様な取組と協働しながら検討する。
- 気候予測に関する最新知見（文科省気候変動予測先端研究プログラムの成果など）の共有・解説を随時行う。
- ダウンスケーリングWG（高薮出座長）の活動を継続する（気候変動適応の研究会の次期分科会「気候データ利活用推進分科会※」（気象研・川瀬宏明座長、令和8～9年度）と連携する。

座長：西森 基貴（農研機構）

背景

- 今期は農業・林業・水産業それぞれの専門家が集結する機会を活かし、分野間の接点や新たな研究連携の可能性を考える場として活動してきた。
- 推進費S18-2「農林水産業分野を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価」の成果に関する勉強会を計4回開催した。次なるステップとして、成果の社会実装へ向けた活動が必要と考えられる。

次期の活動方針（案）

- 推進費S18-2の成果活用の一つの方法として、地方公共団体等における「将来予測を活用した農林水産業関連の基本方針・計画等の策定支援」に取り組む。
- 上記における各プロセスにて必要とされる科学的知見や技術について、分科会がバックアップする。
- 参加機関の今後の取組の参考となるよう、策定支援の経過は分科会内で随時共有する。

座長：横山 仁（防災科学技術研究所）

背景

- 自然の機能を活用した気候変動適応策の実現には、分野横断・省庁横断的な取組が必要。
- 多様な主体が関わる分野であるため、勉強会、セミナー等を通じた定期的な情報交換の機会を設けることが重要である。

次期の活動方針（案）

- NbSの考え方についての理解を深めるため、多様な関係者を交えた意見交換を行う。
- 勉強会やセミナーの場での情報交換に留まらず、フィールド視察会等でNbSの現場を実際に見て学ぶ機会を設ける。
- 「NbS自然と適応データベース」の更新や活用方法の検討を継続する。

座長：岡 和孝（国立環境研究所）

背景

- 今期は国研とLCCAC等のそれぞれの活動を共有する場、対話する場として有益であった。
- 特に暑熱分野はLCCACの関心も高く、熱中症等に関する最新の科学的知見をセミナーの場で共有することは継続すべきである。

次期の活動方針（案）

- 春～初夏の時期に、熱中症や暑熱対策に関連するセミナーを開催し、最新知見の共有と熱中症対策への意識向上を継続的に行う。
- 共同研究適応型（暑熱）との協働を模索する。
- 暑熱以外の分野の議論も充実させるため、推進費 S-24より本分科会に関連する成果を共有し、成果活用について検討する。